おーい！くじらぐも

Vol.47　2025 年（令和 7 年）5 月号

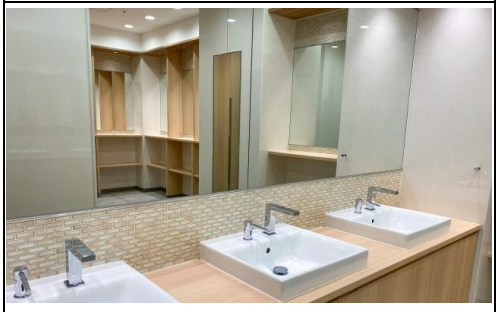
発行人：（福）健翔会　相談支援センターくじらぐも
所在地：埼玉県行田市小見 1141 番地 1
TEL：048-580-3634　FAX：048-554-8814
MAIL：kujiragumo@kenshokai.net
発行責任者：くじらぐも　センター長　細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第 4 号事業所です。

福祉サービス全般、日々の生活でお困りのことなどもご相談ください。メール等での受付も対応いたします。

ユニバーサルデザインをご存じですか？ユニバーサルデザインとは、あらゆるすべての人が使いやすいデザインのことです。今回は身近なデザイン例について紹介します。（写真はピクトグラム）



手をかざすだけで水が自動的に出るセンサー式の蛇口は、力が弱い人や不自由な人でも使いやすいです。小さな子供を抱っこしているときなども簡単に水を出すことができます。

日本の新札には、視覚障害者のために、触覚で認識できる 11 本の斜線マークが施されています。また、額面数字が大きく印刷しており、視力が弱い人にも見やすいデザインです。

『いま一度立ち止まって　お・も・て・な・しを考える
～何をもってよい支援・介護とするのか～』

長く福祉の現場で働いていると、慣れやその立場から、ご利用児・者や家族との関係性や立ち位置が揺らいでしまうときがあるように感じます。また、支援者として、ご利用児・者に接するとき、しばしば「身体的ケア」に関心を払いがちになります。その人が「より良く生きる・生活する」ためにはどうするべきかも考える必要があります。それを支えていくのが「おもてなし」の精神ではないでしょうか。支援や介護業務における「おもてなし」について、考えてみたいと思います。

我々が提供しているサービスには、相手が求めるものを提供し、そこには対価（ビジネスの世界では金銭）が発生します。例えば、コーヒーを注文されたときに、過不足や豆の種類間違いなく提供するのが「サービス」とするならば、ティースプーンの向きや位置を整えて出すのが、ちょっとした気遣いだと思います。私の考える「おもてなし」の精神は、このちょっとした気遣いです。

支援の現場で、職員が目の当たりにすることとして、「普段できることを助ける」についての考え方です。私の考え方も、できることは自分でやってもらうというものですが、時々やってもらえるとうれしい気持ちもわかるので、個人個人のニーズがあると思っています。1 回やってあげたところで、その人の能力が落ちるなんてことも考えにくいので。ただ、考え方によっては、その人が覚える・できるチャンスを逃すことにも繋がるのでは？と言われたこともあります。

何をもって「よい支援・介護」とするのか、「ご利用児・者に寄り添うこと」が、どこまで行えるのかは、人それぞれ考え方や価値観に違いがあります。ご利用児・者にとっても、支援者にとっても理想的な支援・介護。それは、結局のところ、ご利用者児・者の気持ちや想いをよく理解して、先回りした「気遣い」ができることなのではないでしょうか。日々勉強です。

＜5 月のトピックス＞

私事ですが、近くに住む義母に大変お世話になっています。先日、三男の誕生日パーティーを兼ねて、夕食をご馳走してくれるというので、自宅に伺いました。お邪魔すると食卓には、たくさんのおかずが並んでいます。座敷に座り、準備の様子を見ていると・・・。

義母がレタスの葉を複数枚持って、テーブルに置かれている「唐揚げ」のまわりにそのレタスを敷き詰めていました。きっと彩りをよくするためと理解しましたが、そのときに、このちょっとした気遣いに有難さを感じ、招いてくれている想いが私に伝わりました。↑のテーマを書こうと、きっかけになった出来事なのでした。そんな義母に感謝です。